

平成29年度 兵庫県立湊川高等学校 学校評価

(1) 手順

- ①年度当初、評価項目に対する実践目標と本年度取り組むべき具体的な方策を掲げる。
- ②7月に教員による自己評価(中間評価)を行い、それを受けて第1回の学校評議員会を実施。学校評議員の意見を取り組みに反映させた。
- ③1月に教員による自己評価(最終評価)を行い第2回学校評議員会を行った。
- ④学校評議員の意見をうけ、その結果を教員で話し合い今後の改善等を考えた。

(2) 平成29年度の学校評価にかかる取組のまとめ

ア学校評価が外部を意識し、内部の共通理解、組織的取組を充実させるものであるとの認識は深まった。また教員による自己評価平均(全体)は昨年度3.3(5段階)、本年度3.6に向上しており組織的取組が進んでいる。

イ評価のための評価ではなく、改善のための評価であるとの意識が高まり、具体的な課題を設定し、改善していくことができるようになった。

ウ意識改革は進んでいるがボトムアップで取り組んでいるかどうかは部署において差があり、さらなる意識改革と力量アップが求められる。

○参考 学校評議員よりいただいた主な意見と今後の取組

- ・生徒募集に関してはHPが有効である。→カリキュラム、学校行事、部活動等の様子を発信し広報の充実に努める。
- ・学校評価において中間評価を実施するなどPDCAサイクルを活用した取組となっている。→今後も継続する。
- ・ここ数年間、生徒の状況を見ると、元気さ、明るさが増し、良い変化を感じる。→伝統を守りながら変化を受け入れてしっかり対応する。
- ・地域行事に積極的に参加している。→今後も地域とのつながりを大事にして取り組む。

教員による自己評価結果と改善策 ※評価の数値は、実践目標の達成状況を全教員により5段階で評価した平均点である。  
(5:よくできた 4:できた 3:どちらともいえない 2:あまりできなかった 1:できなかった)

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	達成状況と改善策	H29	H28	H27
I 学校経営	1 開かれた学校づくり	①家庭や地域への情報発信	ホームページや湊川新聞を通して、学校行事等の事前広報やその実施結果に関する情報を可能な限り公表するとともに、定期的にその内容を更新する	(達成状況)2項目とも前年度評価と比較してもポイントが上昇している。学校ホームページの更新に努めたことなどが評価につながった。また第1回学校評議員会から頂いた意見をうけ取り組みに反映させた。 (改善策)学校ホームページのさらなる充実をはかり広報活動に努める。	4.0	3.5	3.0
		②学校評議員制度の学校運営・改善への活用	学校評議員との意見交換の場を設け、学校運営等の改善に役立てる		3.9	3.4	2.8
	2 生徒指導	①生徒指導方針の明確化とその評価による指導体制の推進	(1)生徒指導方針を職員、生徒に示し、定期的にその方針の達成状況を確認しながら、生徒指導を推進する (2)高校生心のサポートシステム「いじめ・暴力行為減少・克服に向けた実践・研究」指定校として意欲的に研究・実践を行う	(達成状況)前年度評価と比較してもポイントが上昇している。月1回、情報交換会を実施し情報の共有に努めたことが評価につながった。いじめ未然防止プログラムを用いたホームルームを実施し集団づくりについての具体的な改善に努めた。 (改善策)情報の共有、生徒指導方針の共通理解がシステム化し進んだが、アンケート結果等を指針に反映できるような大局的な分析力を身に付けるために研修等への参加や研修会を実施する。	3.7	3.3	3.3
		②生徒の内面理解を図る指導方法の工夫	(1)いじめに関するアンケートを学期ごとに実施し、生徒の抱える悩み等を把握する (2)人命尊重の精神を柱とする安全教育を徹底し、事故や災害への危機管理体制を整備する	(達成状況)前年度評価と比較してもポイントが上昇している。いじめアンケートや講演会後の感想などから問題を抱える生徒の情報が収集でき早期対応が行えた。今年度の講演会(犯罪被害者家族による命の尊厳)は特に心に訴える内容であった。 (改善策)いじめアンケートのさらなる工夫改善を行う。またその日程を計画的に設定する。講演会に関しては講師等の情報収集に努め、引き続き生徒の心に響く講演会を計画していく。	3.9	3.6	3.4
	3 進路指導	①進路指導体制の充実	就職や進学を見据えて、進路指導計画を作成すると共に、「進路の手引き」等を作成し、組織的・継続的に進路指導を実施する	(達成状況)教員の自己評価では高いポイントとなっている。生徒一人一人、また保護者等にも丁寧に取り組んだこと、1、2年生に対しての早期対応の取り組みが評価につながった。 (改善策)1年次からのキャリア教育の充実。進路講演会と進路ホームルームの関連を深化させるなど計画的に実施し充実を図る。	4.2	3.8	3.5
		②職業観・勤労観の育成	外部講師等による進路講演会等を開催し、生徒の職業観・勤労観を育成する		4.1	3.5	3.2
	4 教職員の資質向上	①実践的指導力の向上	公開授業及びその後の授業検討会ができる体制を整え、特別非常勤講師の授業等を実施し指導力向上につとめる	(達成状況)前年度評価と比較してもポイントが上昇しているが各自の人事評価・育成システムの目標の1つに授業改善を掲げ、授業改善に努めたこと、年8回の研修会を計画的に実施したことがポイント上昇につながった。 (改善策)公開授業、研究授業の工夫、改善に努める。また研修の充実のため資料の事前配布や質問等意見の事前収集を徹底し充実を図る。	3.6	3.3	3.3
		②計画性をもった研修の実施	各部・各委員会の協働により、学校の諸課題に関する校内研修を計画的に立案する		3.7	3.6	3.3
	5 危機管理体制の整備	①実践的な研修・訓練の実施	危機管理マニュアルの点検及び改善を行う	(達成状況)前年度評価と比較してもポイントが上昇し意識及び実践力の向上がみられる。危機管理マニュアルを年度当初に見直しアラートの周知を徹底したことが評価できる。 (改善策)防災訓練に際し、災害発生場所、避難経路、避難場所も毎年変化させ対応力を一層高める。	3.4	3.1	3.0
	6 研究活動、指定事業の推進	①資質向上を図る	研究活動や指定事業を通して教育推進にはずみをつけ、課題意識を持って取り組む	(達成状況)本年度初めて実践目標に掲げた項目である。意識して取り組んだが特に学力向上サポート事業の取組は、該当教科以外への広がりが十分ではなく、教員の自己評価では2番目に低い評価である。 (改善策)NIE実践指定校の取組、学力向上サポート事業の取組内容を該当教科以外にも周知しその意義についての共通理解をはかるとともに、今後は教職員に向けて実施成果を定期的に説明する。	3.1	—	—
7 業務改善の推進	①業務改善を全職員で実施	職員のワークライフバランスを改善し、生徒と向き合う時間を確保する	(達成状況)本年度初めて実践目標に掲げ、事例集(GPH50)を参考に業務改善を図ったがさらなる充実が求められる。 (改善策)衛生委員会が定期的に集約しながら、組織として、さらに業務改善を進める。	3.4	—	—	
II 教育課程	1 自ら学び自ら考える力の育成	①体験的・問題解決的な学習の展開	各教科、高校生ふるさと貢献活動事業等において体験的・問題解決的な学習を推進し、特別活動との連携を図る	(達成状況)項目①に関しては前年度評価を上回り、大きくポイントが上昇している。項目②は教員の自己評価では一番低い数字となっている。アクティブ・ラーニングに対する理解が不十分で授業の成果が実感できていないためと考える。 (改善策)地域交流学習会で生徒参加の数を増やすほかは、活動についてはこれまでの経験を生かし継続実施する。言語活動等学習指導の改善については、アクティブ・ラーニングについての理解を深める研修等を実施したうえで、研究授業の目標を明確にして取り組み授業改善を行う。	3.9	3.1	3.2
		②生涯教育の視点に立った実践力の育成	生徒の興味・関心に基づき、調べたりまとめた内容を発表するなどの言語活動を取り入れた学習指導を工夫し実践する		2.8	2.8	2.5
	2 基礎・基本の定着	①学ぶ喜びや達成感が味わえる指導方法の工夫	日々の授業を大切に、学習に取り組む態度や姿勢を養うために、基礎・基本が定着する教科の指導方法を工夫し、実践する	(達成状況)前年度評価よりポイントを上向きさせている。生徒の授業への興味関心を高めることは本校の最大の課題であるので更なる向上を目指す必要がある。 (改善策)生徒の授業アンケートの精度を上げその分析を取り入れた効果的な授業改善等、PDCAサイクルを実行する。①の項目としてユニバーサルデザイン等を意識した授業改善に取り組む。	3.3	3.1	3.1
		②評価規準の設定	より計画的な指導を推進するために、シラバスや年間指導計画の整備を行う		3.4	3.1	2.9
	3 個に応じた学習指導の徹底	①評価方法の創意工夫	評価方法について各教科の評価に対する共通理解を図り、評価方法の研究を行う	(達成状況)項目①②については、前年度評価より向上したものの評価方法の改善については課題がある。今年度新たに設けた③について一部カリキュラムの見直しを行ったが評価は低く三修制カリキュラム等の検証の充実が求められる。 (改善策)評価基準、評価方法の明確化を徹底する。項目②に関してはチームティーチングを強化継続するとともにサポーターを引き続き配置し支援の充実をはかる。ライブ・デザインエリア3年目を終了し、教育課程や内容のさらなる改善を行う。	3.1	2.9	3.0
		②指導形態の工夫	習熟度別授業や少人数指導の深化を図るとともに、チームティーチングによる指導などの工夫を行う		3.7	3.4	3.0
③三修制、エリアの導入		学校設定科目の設定等を図り、「学び直し」「調理師免許取得支援」、各々に目標をおいた選択科目群からなる2つのエリアを設定するとともに、三修制カリキュラムの導入により、目的意識を高め、多様な学びを支援する		3.2	—	—	
III 課題教育	1 健康教育と安全教育の充実	①生涯にわたる健康の基礎を培う指導の工夫	「ほげんだより」を発行するなど保健室の機能を生かし、適切な健康管理・保健指導を行う	(達成状況)項目①に関しては前年度評価と変化がない。項目②に関しては給食アンケートの実施などにより評価を上げていくがさらなる充実が求められる。 (改善策)養護教諭との連携強化。一斉実施の健康診断における不受検者を減らすため、具体的な対応を強化する。給食を通じて食育、マナー指導を充実させる。給食アンケートを継続的に実施しメニュー改善を生かす。	3.4	3.4	3.5
		②給食を通じた健康管理	給食を通して、望ましい食の知識を身につけ、それを自己の健康管理に生かす指導の工夫を行う		3.8	3.7	3.5
	2 人権教育	①人権教育推進体制への取組	人権教育推進委員会を中心に、講演会・映画会等を実施し、自分の大切さとともに他者の大切さを認めることが出来る人権感覚を育成する	(達成状況)前年度評価を下回り、教員の自己評価の中でも低い評価となっているが取り組みが後退したのではなく具体的な実践目標のとらえ方に職員間で差が生じていたことが主な理由である。共通認識が容易でわかりやすい実践目標を今後掲げたい。 (改善策)人権の視点を持った学習活動、ユニバーサルデザインを意識した授業改善との関連を図る。LGBT等の身近な問題にも取り組み、ホームルーム計画の中で事前指導や振り返りをしっかり位置づけて行う。	3.2	3.4	3.4
	3 国際理解教育	①異文化理解の深化	朝鮮語、英語、総合的な学習の時間等において、異文化理解を深める	(達成状況)前年度評価を上回りポイントが上昇している。地域交流学習会の取り組み、朝鮮語の授業の取り組みが評価につながった。 (改善策)異文化理解をテーマの1つに掲げ実施している地域交流学習会を来年度実施予定の修学旅行(台湾)の事前学習にも位置付け内容の充実を目指す。	3.7	3.2	3.0
	4 学校の個性化	①体験活動の推進	(1)体験的な教育活動により、生徒の発想や主体性を生かし、生徒の意欲を引き出す教育活動を展開する (2)兵庫型「体験教育」の一環として高校生ふるさと貢献活動事業を活性化させ、地域に開かれた学校づくりを進める	(達成状況)前年度評価ともポイントを上向きさせている。特に(1)に関しては上昇率が高く、本年度から実施のD×Pクレッシェンド(不登校等を経験した社会人との交流プログラム)の取り組みが高評価につながった。 (改善策)D×Pクレッシェンドの取り組みのさらなる充実を図る。県政150周年記念事業との関連を強化し推進をはかる。	3.9	3.1	2.8
5 特別支援教育	①校内支援体制の充実	職員の研修を深め、支援が必要な生徒へのきめ細かく適切な教育的支援を行う	(達成状況)本年度新たに設けた項目であり、今後取り組みを充実していきたい。 (改善策)職員研修会、外部講師の講演会等、特別支援教育に対する理解を深める。ユニバーサルデザインを意識した授業改善との関連をはかる。支援が必要な生徒への具体的な支援計画を策定する。	3.3	—	—	